

# 仏法領

ぶつぽうりょう

第71号

発行：真宗大谷派  
 念信寺  
 〒824-0202  
 福岡県京都郡みやこ町  
 町岸川上高屋761  
 ☎ 0930-42-0329  
 Fax 0930-42-0502  
 ホームページ  
 nenshinji.org



(写真・文 大迫光浩)

### 玄關先の菜の花より

葉を大きく広げ、春の風を待つ。  
 蕾に「もう咲いてもいいよ」と、  
 伝えるために。  
 私も誰かに、春の話をしたくな  
 ってきた。  
 おや、春の足音が聞こえて来た  
 ようだ。

### 「啓蟄」に想う

この仏法領編集委員会で「啓蟄」ということが話題になりました。啓蟄は「けいちつ」と読む。皆さんご存知のことだから改めて説明する必要はないと思います。

一年の時節を二十四に分けた節氣の名前のひとつ。寒い冬の間地中に隠れていた虫たちが暖かくなって地上に出てくる季節をいう。つまり、春が来たよということですね。

ジャガイモを植えようと畑を耕すと天道虫がゾクゾク出てきて、啓蟄という言葉が実感できますよ。

私たちの回りの自然は虫や動物だけではない。木々や草などの植物の方が圧倒的多い。



では、植物はどうして季節は春だとわかるのだろうか。考えてみると不思議なことだよねえ。バカ！そんなことを考えるのは無駄なことよ、人間が教えなくても春になれば芽を出し、秋には実がなり、米粒ができるに決まっちゃう。だから思い悩む必要はなかない、というのが大多数の意見でしょう。

だけど、一木といえども花を咲かせ、葉を出すことを忘れたことを見たことがない。やはり実に不思議なことだよね。ただひとつ言えることは、こうして自然は何万年、何百万年と命を繋いできたということです。

(記 阿部正紀)





◆真宗の仏事◆  
お彼岸



お彼岸はお寺参りや墓参りで、墓地は一斉にお花で彩られます。先だった人を訪れるひとときです。

「彼岸」とは、もともと仏教の言葉です。迷いのこの世、此岸を超えたさとの世界を彼岸とあらわしています。春分と秋分の日を中日として前後3日の7日間を彼岸とも呼び習わしてきました。

東の空から輝き出る太陽、西の空に沈む夕日は、はるか人類の営みを支え、様々な思いを与えてきてくれました。

「西に沈む落日を心にとどめよ」(『仏説観無量寿経』)というブツダの言葉は、日頃忘れていた大切な営みを思いおこさせるものでしょう。

彼岸中のお内仏(仏壇)には内敷をかけたお華束を備え、お花もその季節のものを花瓶に挿します。



お華束(餅・落雁)



内敷(平常はなし)

(『真宗の仏事』東本願寺)

浄真寺の報恩講

●2月22日、朝、昼席  
●講師 村上秀磨先生(赤村 光明寺住職)



→みんなでお勧め



21日はお掃除、おみがき有難うございました。

報恩講とは?

浄土真宗の開祖親鸞聖人(1173-1262)は90歳で入滅した。京都市の東本願寺は新暦11月21日から、西本願寺では新暦1月9日から7昼夜に渡る忌日法要が行われる。

いずれの本願寺も各地から多くの門徒が集まる。この法要を報恩講という。(以上、インターネットの説明)

この法要は浄土真宗の門徒にもっとも大切にされてきた。各地の別院、一般寺院、門徒のお宅でも勤められる。因みに宇佐の四日市別院は【12月12-16日】

念信寺は【11月21-24日】と毎年日程が決まっています。



四日市別院境内のテント小屋

おみがき



「おみがき」とは、磨き剤で真鍮製の仏具をみがきあげる作業で結構大変だ。昔はじいちゃん、ばあちゃんがお孫さんと一緒にしたと聞いている。我が家でも父と一、二度だが作業して、「信心のない者は綺麗にならない」などとからかわれた記憶がある。今でもいい思い出となっている。

浄真寺のお手伝いの方々も高齢化してきているので、できるだけ負担を軽減しようと、事前に少しずつ準備した。すると、仏具の一つひとつに寄附者の名前が刻まれている。

わたしの知った人もいるし、知らない人もいる。しかし、その人々が仏さまの本堂を整えた心根を思うと、大変親しみを感じる。それが伝統なのだろう。



念信寺の報恩講



おみがき



花立て



男性世話人によるお荘厳くし作り



24日は江本忍先生

美事にお荘厳が出来ました



24日夜、大連夜の感話の後は鍋を囲んで懇親会





# ひと

## 今回は犀川犬丸在住の〇さんをご紹介します。

〇さんは昭和十一年生まれで、現在八十一歳。生れたのは旧犀川ではなく、田川市伊田とのこと。終戦に至る数年間はお母さんの郷である犀川山鹿で過ごしたが、それ以外は高校卒業まで伊田で過ごしたそうです。



その後昭和三十四年に当時の犀川町役場に就職され、定年まで勤められたとのこと。

お住いは昭和四十二年結婚以来、伊良原に住んでおられた。ダムが出来たため、現在の犀川犬丸に移住された由。一つ処に四十年も働かれ、ひとつ処に四十年も住まわれていたので、ご存知の方は多いと思います。

このように淡々と綴ってゆくと平穩無事の生涯と思われるかも知れませんが、実はさに非ず。波乱万丈としか言いようのない人生を送られて来た方だとわかります。ゆうに一冊の立派な自叙伝ができあがると思います。

〇さんを形作っている原体験は、何と七歳の時の国家(当時は軍部)による不条理な仕打ちに基づくものだとおっしゃる。爾来七十数年間揺るぐことなく、反国家権力の姿勢を貫かれてお

られ、現在に至るも多忙に活動を続けておられます。

こう書くと、さも強面の頑固老人に思えるかも知れませんが、これまたさに非ず。心根が実に優しい方だとわかります。私心、欲心もなく、本当に優しい方。でないといふと七十年も志を継続することはできなかったと思われま。これからも身体留意の上、活動を続けられることを切に願うものです。

(阿部正紀・記)



〇さんは、念信寺墓園第1回総会を2008年に開催してより、ずっと墓園護持会長を引き受けて下さっています。

この間、会員の意見を平等にとりあげて会議を取り回し、役所との折衝をし、墓園事業を円滑にすすめて軌道に乗せて下さいました。皆さんの協力体制ができたのも、緒方さんの人柄のお陰だと思います。

今年1月永年連れ添われた奥様をお見送りなさいました。昨年の五十年の金婚式だったそうで、大変辛い時期をお過ごしのことと思います。

しかし、今までのしつかりした歩みが自信となり、悲しみを乗り越えて私達の先頭になり歩んで下さるものと思っています。

(住職)

### 墓園加入者募集中!



永代に管理費が不要の永代墓、門信徒用第1墓園、および門信徒以外も入れる第2墓園があります。景色は抜群です。

永代墓



第2墓園



第1墓園

## 報恩講 法要のレポート

日時 十一月二十一日(日)二十四日(平成二十九年)

(平成二十九年)

講師 長倉 伯博先生(鹿児島市善福寺住職) 法話テーマ『死の臨床』における仏道の心構え

最近の二人に一人はガンに罹ると言われています。ガンのなかでも五年生存率が低い「食道ガン」も四十二%(平成二十八年)まで改善されたようです。早期発見と医療技術の向上により「ガン」の七十%程度は対処出来るとのことです。



11月21, 22日長倉のりひろ先生

一方、末期ガン(終末三十日程度)を宣告された人にはいろいろな難題が待ち受けています。まず

- ①身体的には医師等による医療の対応
- ②心理的には精神科医師・臨床心理士の治療

③社会的には治療費・看護体制等の諸問題があるようです。

そして「死が直前に迫ってくる」覚悟と「この世に生まれてよかった」との想いを持つていただくこと、結果、最期まで「生きる希望」を持ち続けて

欲しいというところに「仏教」としての意義があるところの指摘でした。

「一人の人生の終末期」をチームとして対応しようとする動きが起きているようです。(私も友人知人のお見舞いで見聞きしています)総合病院ではチームを組んで治療に取り組んでいます。また「ソーシャルワーカー」という相談部門が開設されて誰でも訪れる事が出来ます。

長倉先生は滋



賀医大の講師もされていますので講義調のお話ぶりでしたが、通常医療現場では敬遠される僧侶がこのチームに加わって仏教の存在意義が評価される日が近い事を願っています。

誰もが逃れられない、生・老・病・死の四苦を課題として人生の意義を考える仏教。寄り添う私たちは「あなた往く人、私も少し遅れて往く人」の気持ちで「傾聴(お話を聞く)」「受容(受け入れる)」「共感」を基本に接して欲しいとのこと。お見舞いに「明るく」「頑張つて」等は禁句だそうです。

今回は重たいお話でしたが仏教がどんどんと新しい分野に進出することが期待される法話でした。

合掌



レポーター役 おいさん



春のお彼岸法要のご案内

まだ寒い日が続いています。皆さまいかがお過ごしですか？お彼岸の御法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

日時 三月二十六～二十八日

日時	午後一時半～	午後七時半～
二十五日(日)	法話	法話
二十六日(月)	法話	法話
二十七日(火)	法話	法話

講師

祖父江 佳乃 先生 二十五～二十六日 昼席

名古屋市 有隣寺住職

徳風幼稚園園長。生まれた時から、祖父である祖父江省念師の説教を聞いて育つ。愛知淑徳大学卒業。CBCラジオ才局アナウンサーを3年間経験後、同朋大学仏教専修学科卒業。母方の祖父も、大谷派教学研究所長をなさり、布教の名手としても高名な仲野良俊師。

加来 知之 先生 二十七日 昼席

豊津 淨邦寺住職

京都大学哲学科 東北大学博士課程終了 真宗大谷派教学研究所 研究員を経て現在淨邦寺住職

祖父江先生のコメント

皺があって、シミがあって、ささくれもある手。念信寺の同行様は、良い事も悪い事も楽しい事も辛い事も、全てをその手でつかんでこられました。そして、その手を合わせ、南無阿弥陀仏をい



ただいて、あゆんでこられた。その人生の先達を前に、今年もお育ていただき

る事を心より喜び感謝しております。精一杯お取り次ぎさせていただきます。うれしくたのしくおごそかに、よろしくお願



法座予定

二〇一八年

●皆作法要

六月三十(土) 七月二日(月) 講師 松月 博宣 師 (糸島市)

●秋彼岸法要

九月二十八(金) 三十日(日) 講師 瓜生 崇 師 (滋賀県東近江市)

●ご正忌・報恩講 十二月二十一(火) 二十四日(金) 講師 未定

行事予定

●上高屋仏教婦人会追弔会 3月29日(水) 午前10時30分

於念信寺

●京都組同朋のつどい 4月10日(火) 午後1時

於浄喜寺 沙加戸弘 師

●本願寺仏教講座 第2回4月3日(火) 伊藤元師

第3回5月9日(水) 牧野桂一師

行橋商工会議所 3階 午後一時半～3時半 聴講無料、どなたでも聴講できます

●推進員前期教習 ①6月22日 ②7月3日

③7月22日 (会場等は未定)

お寺の活動



四日市別院団体参拝2017/12/16、京都組182名参加



京都組・初組会2018/1/22



3/7寺報編集委員会



子ども報恩講12/28於普徳寺



除夜の鐘



興隆寺前住職本葬儀、2/15



3/2、墓園役員会



3/8、犀川同朋会



3/9、二十八日講、上高屋引き受け



3/14門徒会、於浄喜寺



3/7、第1回仏教講座

あとがき

啓蟄(けいちつ)が今号のテーマでした。「啓」は「ひらく」。「蟄」は虫が土中にひそんでいる様子。ですから、「啓蟄」は暖かくなり土中にひそんでいた虫が這い出てくることをイメージしているのでしょう。執着のとりわれから私たちが解放される姿とも読めます。自分の立場から他者を批評すること、それはどこまでも自分に執着している姿でしょう。批評はあっても、育つことを願うという温かい眼差しはなかなか持てません。そのような眼差しは自分が育てられて初めて気付くのかも知れません。

毎日に暖かくなり、少し薄着ができて嬉しいかぎりです。この時期、定年退職祝賀会のお誘いがあると、確定申告やら出来ていないこと、多さを気にしながらもその人たちの顔が浮かびます。祝電の文章を考えつつ、しばし過ぎ去りし時代を懐かしんでいます。

